

クヌギ林とため池がつなぐ 国東半島・宇佐の農林水産循環

国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会



適正に管理されたクヌギ林



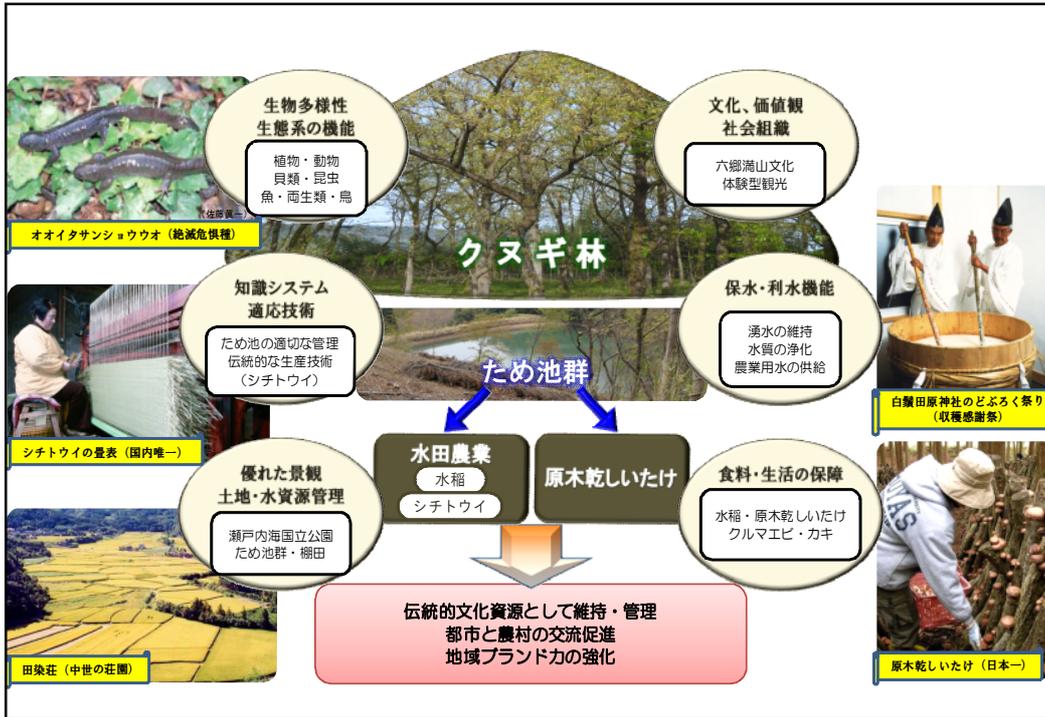
クヌギ林の土壌断面



典型的ため池上流部に植林されたクヌギとしいたけ生産



中世からの姿を残す「田染荘小崎の農村景観」





原木しいたけの生産過程

特徴

1. しいたけ生産者自らがくぬぎ伐採・萌芽更新
2. 良質なしいたけ生産
 - 広葉樹林内明るいホダ場(52%)
 - ため池水散水ホダ場(49%)

歴史

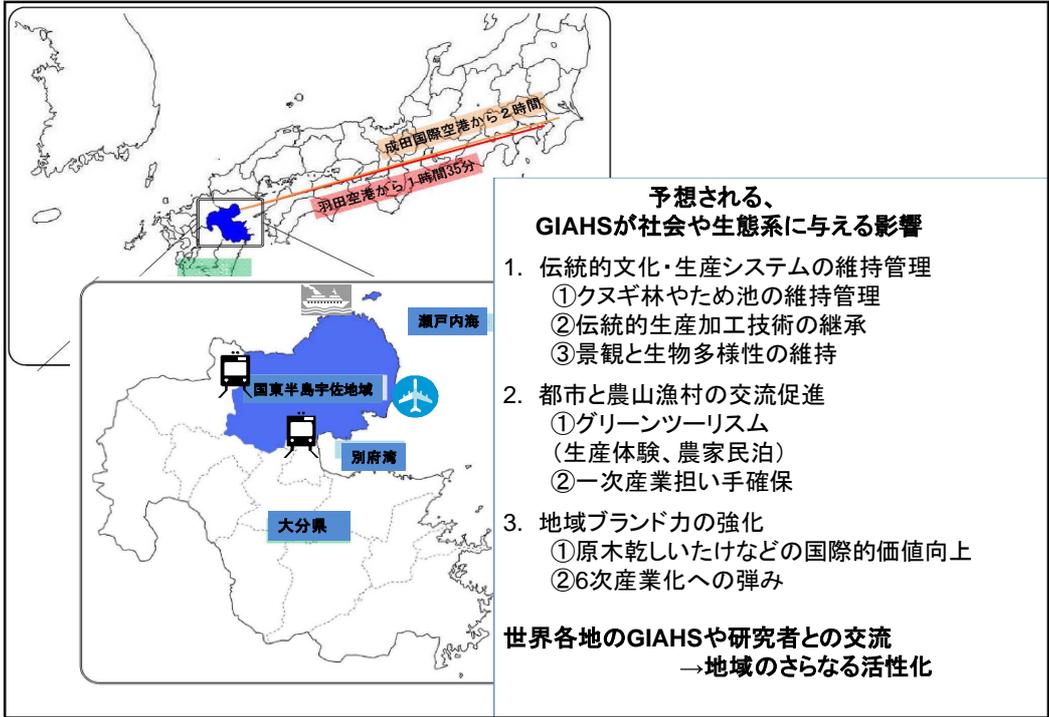
1. 17世紀より鉈目栽培による人工栽培
2. 1885年より国東で鉈目栽培
3. 1942年森喜作博士による種駒発明
4. クヌギ植林奨励により豊富な原木
(森林面積の48%)



日本唯一のシチトウイ産業

特徴と歴史

1. カヤツリグサ科シチトウイを使った丈夫な畳表
2. 狭い面積で高収入
3. 高度な栽培・加工技術必要、優良系統の維持
4. 江戸時代よりこの地域の一大産業
5. 現在5戸、1haまで栽培面積が激減
(労働力流出、機械化困難、柑橘への転作、生活様式の変化)
6. くにさき七島蘭振興会設立(2010年) 新規参入者支援(2名若者)、技術革新支援



**予想される、
GIAHSが社会や生態系に与える影響**

1. 伝統的文化・生産システムの維持管理
 - ①クヌギ林やため池の維持管理
 - ②伝統的生産加工技術の継承
 - ③景観と生物多様性の維持
2. 都市と農山漁村の交流促進
 - ①グリーンツーリズム
(生産体験、農家民泊)
 - ②一次産業担い手確保
3. 地域ブランド力の強化
 - ①原木乾しいたけなどの国際的価値向上
 - ②6次産業化への弾み

世界各地のGIAHSや研究者との交流
→地域のさらなる活性化